

新大陸・最古の街、夢のサントドミンゴへ

北米、南米に挟まれたカリブプレートにはおよそ700の島嶼や岩礁が存在し、そのプレートの境に沿って弧を描くように並んでいます。西インド諸島と呼ばれるその島々の呼称は、500年前、まだ誰も行ったことがない西への路に舵を切ったコンキスタドール、クリストファー・コロンブスのインディアス事業に由来します。

世界史に刻まれる1492年8月、コロンブスはスペイン・パロスを出航しておよそ2カ月後にサン・サルバドル島に足跡を記したのち、キューバを「発見」、次いで碇を下ろしたのがイスパニョーラ島でした。この東3分の2を占める国が、今回私どもが初めて本格的にご紹介する旅の舞台、ドミニカ共和国です。

イスパニョーラ島はカリブ海でキューバに次いで2番目、九州よりは一回り大きい約4万8000平方キロの面積を誇り、島の西側にはフランス語圏のハイチがあります。

近年はとくに観光に力を入れて発展し、約600万人もの海外渡航客を受け入れているカリブ一の観光国です。



新大陸を指さすコロンブス像

白な砂浜とエメラルドブルーの海が待っているとあって、身近で、かつ理想のリゾートとなっているのです。

おもな観光客はアメリカ人で、東海岸に住む彼らにとって、西海岸のリゾートへ出かけるよりドミニカに飛んだほうが早く、心が解放されるような真つ

広がり、新市街にはカリブ海唯一の地下鉄が走るほど、カリブ随一の近代都市の顔を見せます。しかし一方、旧市街ソーナ・コロニアルは、今なお大航

首都はカリブ海に面したサントドミンゴ。オサマ川を境に東側にコロンブスの弟が最初に街を築き、後に植民地総督ニコラス・デオバンドがその西側に街を移転してサントドミンゴと名付けました。現在街は

海時代の面影を色濃く残します。ここは、スペインが新大陸への足がかりとして初めて築いた新大陸最古の都市であり、新大陸最初の教会や修道院、裁判所、病院などが築かれた場所だったので。カリブ海諸国にはいくつもの世界遺産がありますが、島国で街が登録されているのは、ハバナとこのサントドミンゴだけです。ソーナ・コロニアルを歩いていると、ふと、きつこうであつたらう昔日のスペインの姿を見出し、コロンブスの新大陸発見の夢や情熱に思いを馳せては、旅心の高まりを覚えずにはいられません。

新企画では、このサントドミンゴに注目し計3泊。また美しい自然にもふれていただくとうと、欧米人でにぎわうリゾートから離れ、北部のサマナ半島に足を延ばして2泊します。

未知なる島国ドミニカ共和国。コロンブスのように胸を踊らせながらお訪ねください。新鮮な驚きと発見に満ちた旅が待っています。



ドミニカ共和国視察レポート

発表を前に、当社で中米をこよなく愛する富川優が視察に出かけました。



歴代総督が暮らした官邸 (Casa Real)

歴代の総督が330年もの間住んで、当時初代植民地総督としてもコロンブスが過ごしたであろう官邸が重厚な建物として残されています。なかには第一回航海時のサンタ・マリア号を復元した模型や、コロンブス直筆の手紙をはじめとする貴重な資料が見られます。桃山から江戸時代にかけての日本の武器が展示されていたのには驚きました。



今も残るコロンブスの館

旧市街の中心はスペイン広場。そこにはコロンブスの子孫が3代にわたり住んでいた邸宅が博物館として残されています。ゴシックとルネッサンス建築が融合した私邸で、当時の贅沢な暮らしぶりを垣間見ることができます。



新大陸最初の大聖堂

ルネッサンス様式とゴシック様式が融合した、新大陸初の大聖堂。1510年、カスティーリャ王の命を受けて建築を開始。コロンブスの遺言どおり、彼の棺はここに安置されていました(現在は新大陸発見500年を記念して建てられた墓廟に移転)。



スペインの面影漂う旧市街のストリート

スペイン広場を囲むアタラナサス通りには白壁にレンガ造りのスペイン建築が続きます。今はかわいらしいカフェやレストランが軒を連ねます。また歩行者天国のエル・コンデ通り(写真)は一大ショッピングストリート。自由時間にのんびりお訪ねください。



新大陸初 サンフランシスコ修道院

1514年に新大陸で初めて建てられたサンフランシスコ修道院。地震や英国軍の襲撃などで崩壊しましたが、その跡が現在まで残され、コンサートや演劇の会場になっています。

